

## タイ

## 1. 概況

2004年のタイ経済は、輸出、直接投資が拡大する一方、鳥インフルエンザ（年初に始まり一旦収まったが8月に再発）、南部イスラム圏の治安悪化、更には原油価格高騰、世界的金利上昇などのリスク要因によりGDP成長率は、6.1%と前年の6.9%から若干の鈍化が見られた。

鉱物生産は、褐炭、石膏といった非金属鉱物（工業用鉱物）を中心に約40鉱種、2004年の総生産額は340億4,260万バーツとなっている。金属鉱物については、金、銀、亜鉛、錫で生産額の12%を占めている。鉱量の枯渇や一時期の市況低迷により金属鉱物の生産が減少した一方、工業用鉱物の需要増大を受け、1980年代後半以降から非金属鉱物の生産額が著しく増加し、全体として鉱物生産額は増加してきている。

## 2. 鉱業政策

鉱業法（Mineral Act B.E. 2510）は、1967年に制定されており、2002年には、地下100m以深の採掘について、土地所有者からの許可及び補償を不要とする内容の改正が行われた。

近年タイ工業省は、自らの役割を鉱業の監督・規制から鉱業の振興にシフトするととして、鉱業の操業効率の向上及び地域社会・環境との調和、原材料としての鉱物資源の安定供給確保を政策目標としている。また、ミャンマー、ラオス等近隣国での錫、亜鉛、鉄、銅鉱案件への共同出資可能性の検討、タイ国内の鉱物資源賦存マップの充実等を進めている。

## 3. 主要鉱産物の生産動向

主要鉱産物の生産量等は、以下のとおり。

主要鉱物生産量

	2003	2004
亜鉛鉱石 (t)	148,297	199,477
金 (kg)	4,269	4,506
銀 (kg)	12,496	10,702
錫鉱石 (t)	980	724
石膏(千 t)	7,291	7,619
石炭 (千 t)	18,843	20,059

Source : Department of Primary Industry and Mine

主要鉱物生産額

単位：百万バーツ

	2003	2004
亜鉛鉱石	964.9	1,649.8
金	2,065.9	2,369.9
銀	77.5	89.4
錫鉱石	142.4	176.2
石膏	3,432.1	3,698.6
石炭	9,421.7	10,029.9

Source : Department of Primary Industry and Mine

主要鉱物輸出货量

	2003	2004
亜鉛 (t)	7,889	2,818
金 (kg)	4,265	4,504
銀 (kg)	12,498	10,702
錫(t)	10,390	14,566
石膏(千 t)	5,117	5,321

Source : Department of Primary Industry and Mine

## 4. 鉱山会社活動状況

Padaeng Industry 社

同社は、ASEANで唯一、亜鉛鉱石の採掘から精錬までを行っており、需要の増加、価格上昇を反映し、2004年の売上高は、前年比17%増の567億3,814万バーツ、純利益は、2億1,702万バーツと大幅な黒字に転じ、約10年ぶりの復配となった。

Tak市の同社亜鉛製錬所は、2004年108,577tを生産した。同精錬所は、近郊のMae Sot 鉱山からの鉱石の他、豪州、ペルー、米国等から輸入している硫化亜鉛精鉱を使用しており、原料の約半分を海外に依存している状況となっている。

Mae Sot 鉱山の2004年生産量は、167,024t（珪化亜鉛鉱）であり、同鉱山の埋蔵鉱量は、355万4千t（亜鉛品位12.7%）とされている。

## 5. 鉱山・精錬所状況

Chatree 鉱山

同金鉱山は、バンコクの北約280kmの北部Phichit 県及びPhetchaboon 県に位置し、2001年11月から操業を開始している。

2004年の生産量は、鉱石が195万t（金品位3.1g/t）、金149,979oz（前年比3%減）、銀、395,346oz（前年比18%減）となっている。同社は、2003年12月、鉱石生産能力を200万t

に増強している。

埋蔵鉱量は、2004年6月末現在、金108万oz、銀730万ozとされている。

#### Phu Thap Fah 鉱山

錫鉱山開発大手 Tongkah Harbor Plc. の子会社、Thung Kham Mining 社が、Loei 県 Wang Saphung における金の採掘権を2002年に取得、2005年後半の生産開始が見込まれている。

#### Phutep Copper プロジェクト

同プロジェクトは、タイ北東部 Loei 市南東に位置し、Pan Australian Resources 社が、工業省から最終 Feasibility Study の実施許可を得、調査を実施することとしている。本件は、Puthep Company (タイ Padaeng Industry 社の子会社) と Pan Australian Resources 社との合弁事業であり、2つの露天掘鉱床からなり、埋蔵量は銅量52万tで、SX-EW法により年産25,000tの銅カソード生産が想定されている。

#### Thai Copper Industries 精錬所

タイ初の銅製錬所となる Thai Copper Industries 社は、2004年8月から操業が開始された。

同プラントは、バンコクの南東約210kmのラヨンに建設され、生産能力は年間16万5千t、最終的には18万t規模を想定。これにより、

現在100%輸入に依存している自動車、電気機器製造等向けの銅地金を国産化することを見込んでいるほか、将来的には中国、インド、中東への輸出をも視野に入れている。所要銅鉱石については、チリ、豪州等から長期契約により確保している。

同社は、1994年に設立され、製錬所の建設を進めていたが、7割まで完成した時点の97年に通貨危機が発生したため、計画が一時棚上げ状態となっていたもの。

出資比率は、タイ資産管理公社 (TAMC) 36%、タイ産業金融公社 (IFCT) 7%、タイ・フィルム・インダストリー (TFI) 27%、ノルウェーに本拠地を置くクヴァナ (Aker Kvaerner) 28%等となっている。

#### カドミウム汚染

2004年3月、北部 Tak 県 Mae Sot 郡の水田から収穫された食用米から、0.7~2.0mg/kg のカドミウムが検出された旨が公表された。同地域は2002年にも、他機関により食用米、大豆等からカドミウムが検出されている。近郊には、Padaeng Industry 社の亜鉛鉱山が稼働しており、同鉱山と、97年に閉山した Tak Mining Co の堆積場管理に問題があったとの指摘もある。政府は、水田の売却や米の廃棄処分に応じた農家約800戸に保証金を支給している。

(2005.5.27/バンコク事務所 市原 秋男)